同志社大学

2023

文学部履修要項 （2005年度以降生用）

英文学科
Department of English

哲学科
Department of Philosophy

美学芸術学科
Department of Aesthetics and Art Theory

文化史学科
Department of Cultural History

国文学科
Department of Japanese Literature

CONTENTS

学部長のメッセージ …… 1

科目履修について …… 2

特徴的なカリキュラム …… 5

科目登録について …… 6

成績評価について …… 8

2023年度 開講科目 …… 15

- 開講科目表の見方 …… 16
- 英文学科 …… 17
- 哲学科 …… 45
- 美学芸術学科 …… 77
- 文化史学科 …… 95
- 国文学科 …… 143
- 免許・資格関係科目 …… 153
- 外国人留学生科目 …… 172

副専攻 …… 191

■ 同志社大学学則　■ 学部一般内規　■ 外国留学に関する諸規定 …… 219
■ 学業履修について　■ 文学部（文学研究科）研究室図書の利用について
■ 父母会文庫について　■ 交通機関不通の際の授業・試験の扱いなど
■ 2023年度学部学年暦

新年度を迎えて

今年度の文学部履修要項をお届けします。皆さんは新年度を迎え、新たな気持ちで１年の学修計画を立てようとされていることでしょう。大学では学修計画を含め、多くのことを自分で決め、自分の責任で行うことが求められます。履修要項にはそのための特に重要な情報が記載されています。

文学部は、英文学科、哲学科、文化史学科、美学芸術学科、国文学科という5つの学科を擁しています。それぞれの学科はそれぞれの専門性をもち、それぞれ独自のカリキュラムを通して、専門性を核としながら、さまざまな知識や考え方を学ぶことができるような教育課程を編成しています。それに加え、文学部では各学科の垣根を越えた学びができるよう、副専攻制度を設けています。副専攻には文学部の枠を超えたものもあります。副専攻制度を活用することで、視野や知識の幅を広げるとともに、主専攻の専門的な学びをさらに深めていくこともできるでしょう。

またこの履修要項には免許・資格関係科目などについての情報や、学業履修について知っておくべき基本的な情報も含まれています。特に新入生は、大学生活に深く関わる基本情報を春学期の授業が始まる前に必ず読んでおいてください。

新型コロナ感染症がなかなか終息しない状況ですが、本学では大人数クラスなどを除き、可能な限り対面授業を原則としています。今年度も、感染拡大防止のための工夫を重ねながら、できるだけ通常に近い授業を行い、皆さんが充実した大学生活を送ることができるように努めていきます。

高校とは違って、学生生活はかなり自由度の高い毎日になるでしょう。学業以外にも、サークル活動など多くの楽しいことを見つけていくことができると思います。そのぶん、学業を怠ってもあまり叱ってくれる人は多くないかもしれませんが、その結果学業成績が低くなってしまっても、それは自分の責任です。開放感に浸りきるのではなく、自らを律し、充実した毎日を送っていただきたいと思います。社会人として社会に出ていくまでにどのようにこの時期を過ごすのか、意識の持ち方ひとつで大きな違いが出ることでしょう。多くのことにチャレンジし、常識にとらわれぬ広い視野を持てるよう、日々心がけていただきたいと、強く望んでいます。

文学部長　伊達　立晶

科目履修について

学位の取得に必要なこと

文学部で学位を取得する（卒業する）ためには、4年以上在学し、所属する学科が定めるカリキュラムに沿って授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。卒業要件を満たした場合、卒業する学科によって次の学位が授与されます。

英文学科／**学士（英文学）**、哲学科／**学士（哲学）**、美学芸術学科／**学士（美学芸術学）**、
文化史学科／**学士（文化史学）**、国文学科／**学士（国文学）**

なお、休学するとその期間は在学したことになりません（休学期間を除き４年以上在学する必要があります）。

文学部のカリキュラム体系

文学部は、学科の専門分野を体系的に学ぶことができるよう、授業科目を「必修科目」「選択科目Ⅰ～Ⅲ」「自由科目」「免許・資格関係科目」に分けて開講しています。所属する学科の卒業要件を確認の上、履修してください。

科目群	群　の　性　格
必 修 科 目	**学科の専門分野を学ぶ上で、核となる科目群です。** 段階的に学べるよう、科目ごとに履修年次が定められています。
選 択 科 目 Ⅰ	**必修科目を基盤にして、専門性を充実させるための関連科目群です。** 定められた条件の中で、自分の関心に応じ、科目の選択が可能です。
選 択 科 目 Ⅱ	**専門分野を補完するため、他の領域を学ぶことができる科目群です。** 全学共通教養教育科目は、分野によって区分されています。 **▶詳細は『全学共通教養教育科目履修要項』（別冊）を参照してください。** **■全学共通教養教育科目（2018～2022年度生）** 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目 **■全学共通教養教育科目（2011～2017年度生）** 同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端・複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目 **■免許・資格関係科目** **■他学科・他学部設置科目**　※他大学との単位互換制度を利用して修得した単位も、選択科目Ⅱの単位として算入することができます。
選 択 科 目 Ⅲ （英文学科、文化史学科については選択科目Ⅱ）	**外国語科目を学ぶ科目群です。** 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語（ハングル）の7言語をレベルに応じて学ぶことができます。（学科・コースにより言語が指定されている場合や、上記以外の言語を選択できる場合があります。）
自 由 科 目	**卒業に関わらず、関心のある分野を自由に学ぶ科目群です。**
免 許 ・ 資 格 関 係 科 目	**教職免許や学芸員・司書など、資格取得を目的とした科目群です。** **▶詳細は『免許・資格関係履修要項』（別冊）を参照してください。**

科目ナンバリング

各科目には科目ナンバリングが定義されています。科目ナンバリングとは、授業科目に番号・分類を付与することで、学修の段階や順序が分かるように表示したものです。各科目の履修水準や学問分野を参考に履修するだけでなく、留学先の大学で授業を履修する際、本学授業科目との単位互換の目安として利用することもできます。必要に応じて活用してください。なお、科目ナンバリングについての詳細は、以下のURLを確認してください。
https://clf.doshisha.ac.jp/numbering/numbering.html

科目群の履修にあたって…

必修科目、選択科目Ⅰ～Ⅲ

それぞれの科目群で開講される科目は、年度によって曜日講時や担当者が変わります。

また、「履修できる学年」や「登録の条件」、「卒業単位」等は、学科ごとに定められています。

学科によって、履修しなければならない外国語が指定されている場合や、履修しても卒業単位に算入されない外国語などが定められていることがあります。

▶詳細は、後の頁で紹介する所属学科の「卒業要件」を参照してください。

免許・資格関係科目

教員免許状の取得や図書館司書・博物館学芸員などの資格取得のためには、それぞれの課程で定められた単位を履修する必要があります。その際、免許・資格のために修得した単位が、同時に卒業単位にも算入される場合とそうでない場合があります。学科によって取扱が異なりますので注意してください。

また、1年間に登録できる単位数は**上限48単位**と定められています。免許・資格の課程を履修する場合は、授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、卒業単位との兼ね合いを考え、1年次から計画的に履修することが必要です。なお、所定の手続き（※科目登録時に、種別欄に「M」を付けます）により「免許・資格関係科目」を登録する場合は、上限を超えて登録することができます。このような手続きをした科目を**「免許・資格登録科目」**とよびます。

「免許・資格登録科目」として登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「仮登録（一般登録期間にDUETにて可能）」もしくは「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）」を必ず行わなければなりません。手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示で確認を行ってください。

- ✔ **「免許・資格登録科目」として履修（M登録）した科目の単位は、卒業単位や副専攻の単位には算入されませんので注意してください。**
- ✔ **「仮登録」もしくは「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りM登録を行うことが可能となります。「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合、M登録することはできず登録エラーとなるので注意してください。**

▶免許・資格の履修は、『免許・資格関係 履修要項』（別冊）を参照してください。

▶次頁のQ&Aを合わせて参照してください。

自由科目

卒業単位に算入することを目的とせず、関心のある科目を履修したい場合、所定の手続きにより、その科目を「自由科目」として登録することができます。ただし、自由科目として登録した科目は卒業単位や副専攻の単位として認められません。また、その評価は成績評価のGPA（平均点）にも算入されません。

- ✔ **もともと、自由科目として取り扱われる科目がありますので注意してください。**

▶次頁のQ&Aを合わせて参照してください。

⚠ 注意

一度履修した科目を複数回履修できません。

※科目コードが同一の場合、たとえクラスコードが異なっても同一科目とみなされます。

（例：16002334-001宗教学(1)① と 16002334-002宗教学(1)②は同一科目としてみなします。）

Q&A 「免許・資格登録科目」と「自由科目」について

Q 教職免許を取得したいと思っています。そのためには、通常よりも多くの科目を履修しなければなりません。1年間の上限単位（48単位）を超えて登録することができますか?

A 「免許・資格登録科目」として登録する場合、上限を超えて登録することができます。上限を超えられる単位数は次のとおりです。

一課程履修の場合（例：教職課程「社会科」のみ）の場合　▶「18単位」

二課程履修の場合（例：教職課程と図書館司書課程）の場合　▶「22単位」

なお、「自由科目」は上限を超えて登録することができません。

Q 取得した単位は卒業単位や副専攻の単位に算入されますか?

A 「免許・資格登録科目」「自由科目」ともに、卒業単位や副専攻の単位には算入されません。

Q 評価は在学中に履修した科目のGPA（平均点）に算入されますか?

A 「免許・資格登録科目」「自由科目」ともに、GPA（平均点）には算入されません。

Q 免許資格の取得に必要な科目を「自由科目」として履修した場合、取得した単位は免許資格取得に有効ですか?

A 有効です。

Q 英文学科の学生です。2科目めとして「国語」の免許取得を目指しています。そのためには国文学科の「本来、他学科生が履修できない科目」を履修する必要がありますが、これらの科目の単位の扱いはどうなりますか?

A 2科目めの教職免許を取得する場合、通常は履修することができない他学科の科目を履修する場合があります。この場合、履修した科目は「自由科目」として扱われます。卒業単位や副専攻の単位には算入されません。

	免許・資格登録科目	自由科目
登録方法は？	科目登録時に「M」を付けて登録する。	科目登録時に「Z」を付けて登録する。（通常は指定しません）
上限単位を超えての登録は？	YES（可）	NO（不可）
GPA（平均点）への算入は？	NO（算入しない）	NO（算入しない）
卒業単位への算入は？	NO（算入しない）	NO（算入しない）
免許・資格取得に有効？	YES（有効）	YES（免許・資格の課程に認定されている科目について有効）

※免許・資格関係科目を免許・資格登録科目として履修しない場合は、選択科目Ⅱの単位に算入されます。

※一度つけた「M」「Z」は後から外せません。

特徴的なカリキュラム

副専攻制度

英文学科に在籍しているが、他学科の領域も学んでみたい。美学芸術学科に在籍しているが、学科横断的なテーマについても体系的に勉強してみたい。文学部の副専攻制度はそんな学生さんの要望にこたえるための制度です。

▶副専攻制度については、191頁より詳しく掲載しています。

少人数単位の授業、ゼミナール

文学部では全ての学科で演習（ゼミ）を必修とし、4年間の集大成として卒業論文の提出を課しています。また、全ての学科で1年次から初年次教育（基礎演習など）を実施し、専門分野を学ぶにあたって必要な知識（資料の調べ方など）を学び、基礎を固めます。特に演習（ゼミ）は少人数で行われるため、先生との距離感も近く、全学生にゆきわたった指導体制が整えられています。

全学共通教養教育科目

全学共通教養教育科目とは、同志社大学に在籍する全ての学生を対象とした共通の教養教育カリキュラムです。幅広い学問分野において充実した科目を多数開設しており、本学の建学の精神である**「良心教育」**を**「キリスト教主義」**、**「自由主義（自治自立の精神）」**、**「国際主義」**の3つの教育理念に基づき、リベラルアーツ教育の伝統を受け継ぎながら展開しています。教養教育科目を通じて、創立者 新島襄が願う「良心と自治自立の精神」に満ちた、国際社会に貢献できる人物の輩出を目指しています。なお、文学部では履修した科目の単位は卒業単位に算入されます。

（たとえば…）
【同志社科目】…同志社大学の建学の精神やキリスト教について学びます。
【プロジェクト科目】…企業や地域社会の方々から提案されたテーマに、自らが計画をし、行動する実践型の授業です。
その他、キャリア形成支援科目や国際教養科目、複合領域科目など、従来の人文・社会・自然科学系の科目以外にも、幅広い分野で多数の科目が用意されています。

▶科目登録・詳細については『2023 全学共通教養教育科目 履修要項』（別冊）を参照してください。

科目登録について

登録単位数の制限

（1）1年間の登録単位数の上限

1年間に登録できる単位数は、**48単位以内**です。ただし、春・秋各学期には最低2単位登録しなければなりません。

（2）免許・資格関係科目を「免許・資格登録科目」として登録する場合の上限

免許資格の取得を目的とする場合、科目登録の際に「免許・資格登録科目」として申請すれば、（1）の上限（48単位）を超えて登録することができます。**▶4頁参照**

	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
年間最高登録単位数	48	48	48	48
学期最高登録単位数	46	46	46	46
学期最低登録単位数	2	2	2	2

科目登録の方法

科目登録の詳細については**『登録要領』（別冊）等を必ず参照**してください。また、今年度に開講される科目は、**「2023年度開講科目」（15頁～）**に掲載しています。**『登録要領』と合わせて参照**してください。

科目登録は「春学期」と「秋学期」の初めの年2回可能ですが、なるべく春学期の科目登録時に一年間の履修計画を立て、秋学期の開講科目の登録も同時に行うようにしてください。特に最終学年の方は、卒業に必要な科目を全て登録していない場合、「卒業見込証明書」の発行ができませんので注意してください。

今年1年間の履修計画を立てます。

□まず、所属する学科のカリキュラムを確認します。

▶本誌にて所属する学科の卒業要件を参照してください。

□自分自身の学習目標を達成するため、この1年間に「どのような授業を履修すればよいのか」を検討してください。

▼

履修科目を選びます。

□**2023年度開講科目（15頁～）を参照**し、それぞれの科目の単位数や履修できる学年、担当者、開講校地、期間などを確認します。

□科目の内容は**『シラバス』（https://syllabus.doshisha.ac.jp/）を参照**してください。

✔ 登録した科目を途中で放棄をすると評価に影響が出ます。自分の学びたい内容かどうかをよく確認してから、科目登録してください。

□時間割は**『2023年度文学部授業時間割表』（別冊）**で確認します。

▼

決められた登録期間内に、履修希望科目を登録します。

□科目登録は、学修支援システム「DUET」で行います。

□科目の中には「先行登録」が必要な場合があります。

✔ 外国語科目や実習科目など、一般登録より前に抽選などにより予め登録者を決めるものです。

□科目登録は**「開講科目」（15頁～）**に記載された「登録コード」で行います。登録コードを間違えると正しい登録ができません。

✔ 同じ曜日・講時に2科目以上登録したり、連続する講時に京田辺・今出川で科目を登録した場合は「登録エラー」となります。

※登録期間中は、手続の確認等で問合せを行うことがありますので、必ず連絡が取れるようにしておいてください。

※DUETによる各種申請手続（WEBによる科目登録、先行登録、履修中止など）は、万全の体制を整えて準備していますが、予測不能なネットワーク障害やシステムのハード障害等が発生し、WEBによる手続が行えなくなる可能性もあります。つきましては、申請手続期間中に大学側のシステムに重大なトラブルが発生し、手続が正常に行えなかった場合には、受付時間の延長や教室での受付に変更することがありますので、予めご注意ください。

なお、これらの臨時の対応については、DUETのお知らせにてご案内しますが、DUETが障害により稼働していない場合については、大学ホームページの「在学生のページ」にてお知らせします。

▼

登録科目の確認をします。

□授業開始後、DUETより「登録科目確認表」をダウンロードし、登録エラーの有無を確認してください。エラーがある場合、必ず「登録修正」の手続きを行なってください。エラーがあるにも関わらず「登録修正」を行わない場合、強制的に登録が削除される場合があります。

□登録エラーがなく、計画どおりの科目登録ができていることを確認し、科目登録の手続きは完了します。

▼

登録科目の履修を中止することができます（授業開始約1ヶ月後）。

授業開始約1ヶ月後に「履修中止」の期間を設けています。授業を約1ヶ月間受講した結果、自分の思っていた内容と違う等の理由で、登録を取り止めたい場合、それを申請することができる期間です。不本意なまま授業を続けた結果、その科目の評価がGPA（平均点）に及ぶことのないように設けられた制度です。

履修中止後の登録単位は、学期最低登録単位数（各学期2単位）を下回ることはできません。なお、秋学期登録変更期間には、春学期に履修を中止した単位について、年間登録単位数（上限48単位）の範囲で追加登録が可能です。

※通年科目は、春学期のみ履修中止することができます。

⚠ 注意

⚠ 科目登録に関する日程や教室などは、『登録要領』のほか、掲示板やホームページ等にも掲載されます。**決められた期日を過ぎると手続きができませんので、十分に気をつけてください。**

⚠ 就職活動や大学院受験のため、企業や大学院に提出する**卒業見込証明書**を発行するためには、**卒業に必要な科目を全て登録しておく必要があります。**春の登録の際には十分に気をつけてください。

履修中止により卒業に必要な科目の登録が無くなった場合、卒業見込証明書の発行ができなくなります。

成績評価について

成績評価はGPA（Grade Point Average）制度によって行なわれます。

GPA制度とは

履修した科目の成績は科目ごとに5段階〔Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｆ〕で評価されます。履修した科目全体の評点平均値はGPA（Grade Point Average）として算出され、在学中の履修成績として成績原簿などに記載されます。なお、「Ｆ」評価を得た科目は単位の修得が認められません。

■GPAの判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

左記の段階評価のほかに、「合格」「不合格」「認定」の評価があります。

■GPAの算出方法　（Ⓐ～ⒻはＡ～Ｆの評価が付いた科目の単位数の合計）

$$\frac{Ⓐ\times4.0+Ⓑ\times3.0+Ⓒ\times2.0+Ⓓ\times1.0+Ⓕ\times0.0}{Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓕ}$$

Ｆ評価科目もGPAに算入されます！

F評価科目の書き換え

GPA制度では、Ｆ評価であった科目を再履修してＤ評価以上を得た場合、直近のＦ評価は新たな評価に書き換えられます。（科目コードが同じであれば、クラスコードが異なっていても書き換えられます。）

■ 再履修回数１回の場合（例）

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2022	English Skills(1)	F	書き換え →	2023	English Skills(1)	C

2022年度の「Ｆ」評価が、2023年度の「Ｃ」評価によって書き換えられます。書き換えにより、2022年度の「Ｆ」評価の評点「0.0」はGPAに算入されなくなります。

■ 再履修回数2回の場合（例）

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2021	English Skills(1)	F	成績確定 →	2021	English Skills(1)	F
2022	English Skills(1)	F	書き換え →	2023	English Skills(1)	C

2022年度の「Ｆ」評価により、2021年度の「Ｆ」評価は確定。これにより、成績通知書には、この「Ｆ」評価が記載され、評点「0.0」はGPAに算入されます。また、2022年度の「Ｆ」評価が2023年度の「Ｃ」評価によって書き換えられます。書き換えにより、2022年度の「Ｆ」評価の評点「0.0」はGPAに算入されなくなります。

⚠ 注意

GPA制度では、F評価科目も評定平均値に算出されますので、科目登録は慎重に行なってください。（未受験、放棄の場合もGPAに算入されます。）

GPAに算入されない科目

単位互換科目、単位認定科目

同志社女子大学や大学コンソーシアム京都の単位互換制度、早稲田大学学部交流生制度、在学留学制度などによって修得した単位は、Ａ・Ｂ・Ｃ…評価ではなく、「認定」または「不合格」によって評価されます。これらの評価については、GPAに算入されません。

合否評価科目

（1）「合格」「不合格」によって評価を行う科目

評価を「Ａ・Ｂ・Ｃ…」評価ではなく、「合格」「不合格」で評価する科目は評点の算出を行わず、GPA算出の対象にもなりません。

※「Academic Skills」、「留学ワークショップ（2）」（英文学科）、「教職実践演習（中・高）」（英文学科、国文学科、免許・資格関係科目）、「Intensive Courses for TOEFL（Practice）・（Tutorial）」「同志社の良心とダイバーシティ」「データサイエンス概論」（全学共通教養教育科目）については、「合格」「不合格」評価のみとなります。

（2）「合否評価」を選択可能な科目

他学部等には受講する学生の申告により、評価を「Ａ・Ｂ・Ｃ…」評価で表すか、「合格」「不合格」評価で表すかを選択できる科目があります。これらの科目で、「合格」「不合格」評価を希望して得た評価は、評点の算出を行わず、GPA算出の対象にもなりません。また、合否評価科目において「合格」あるいは「不合格」の評価を希望する場合は、科目登録時に、登録コードに「P」の記号を付与して登録します。なお、文学部では「P」を付与して修得した単位は、1年間の登録制限単位数に含みますが、卒業単位に算入されませんので注意してください。

文学部科目には「合否評価科目を選択できる可能な科目」はありません。他学部の設置科目を履修する場合、その学部の履修要項に「P」の表記がある科目に限り、登録することができます。どのような科目が「合否評価」を選択可能な科目かは、他学部等の履修要項で確認してください（文学部事務室では把握していません）。また、自己申告した登録コード「P」はいかなる理由があっても外すことはできません。十分に気を付けて登録をしてください。

※登録種別「P」は2022年度以前生のみ申請可能です。

自由科目

（1）「自由科目」群として設置される科目

「単位を修得しても卒業単位として扱われない科目」を自由科目といいます。自由科目の評価は、同時にGPAにも算入されません。自由科目については、本誌「開講科目一覧」に掲載していますので、よく確認して登録してください。なお、自由科目として登録する単位は、1年間の登録制限単位数に含まれます。

（2）自己申告による「自由科目」

「履修をしたいが、GPAの対象としたくない」という場合、科目登録時に、登録コードに「Ｚ」の記号を付与すると「自由科目」として履修することができますが、「自由科目」として履修した科目の単位は、卒業単位や副専攻の単位として認められません。また、1年間の登録制限単位数に含まれます。自己申告した登録コード「Ｚ」はいかなる理由があっても外すことはできません。

GPA制度にともなう制度

■履修中止制度

春、秋各学期の授業開始1ヶ月頃に、履修中止期間が設けられます（**日時は大学ホームページ参照**）。実際に授業を受講した結果、望ましい評価が得られないと判断した場合、この制度を利用して科目の履修を中止することができます。

■追試験制度

学部学生（正規学生、科目等履修生、外国人留学生特別学生）の全年次生を対象として、病気またはやむを得ない事由により、定期試験、ならびに臨時試験（中間テスト等）を受験できない場合、追試験の申請を行うことができます（**詳しくは本誌「学業履修について」の紹介頁を参照**してください）。

■成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の平均点や、評点の分布を大学ホームページ上で公表します。

■クレーム・コミッティ制度

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望・成績に対する質問がある場合は、今出川キャンパス教務センター（文学部）に相談してください。クレーム・コミッティが授業担当者に問い合わせ、回答します。なお、相談者の学生IDや氏名が授業担当者に明かされることはなく、相談によって決して不利益を被ることはありません。

各種手続き、その他注意事項について

ここでは、学籍・学費・学業履修に関する手続、規定事項などについて記載します。

授業時間・試験時間

授業時間、試験時間については以下のとおりです。ただし、学年暦で定める各学期期末試験期間中以外に実施される試験の実施時間については各科目担当教員の指示に従って受験してください。

■授業時間

1講時	9：00～10：30
2講時	10：45～12：15
3講時	13：10～14：40
4講時	14：55～16：25
5講時	16：40～18：10
6講時	18：25～19：55
7講時	20：10～21：40

■試験時間

1講時	9：20～10：30
2講時	11：00～12：10
3講時	13：25～14：35
4講時	15：05～16：15
5講時	16：45～17：55
6講時	18：25～19：35
7講時	20：05～21：15

警報時の取扱い

交通機関が不通の場合および暴風警報、特別警報が発表された場合、授業ならびに試験について休講の処置を取る場合があります。※大雨警報は対象外です。

詳細については240頁を参照してください。なお、警報等当日の対応については本学ホームページ上で周知する場合がありますので当日は必ず確認をするようにしてください。なお、休講処置をとった場合の補講については各科目担当教員の指示に従ってください。

身上変更について

在学期間中に住所（本人、父母等両方を含む）、姓名、保証人に変更が生じた場合、至急以下のとおり変更手続を行ってください。

変更事由	手続方法
本人の現住所・電話番号の変更	学修支援システムDUET上「住所変更」にて修正
父母等住所・電話番号の変更	「住所変更届」を提出　　提出先：文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）
姓名の変更	戸籍抄本とともに「改姓（名）届」を提出 提出先：文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）
保証人の変更	「保証人変更届」を提出　　提出先：文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）

在学年限および休学可能期間について

在学年限とは、本学に在学できる最大の期間をいい、下表のとおり、この年限を超えて在学することはできません。

なお、休学した期間（退学および除籍を含む）は在学期間に算入しません。また、休学できる期間は下表のとおり定められています。

課程	在学年限	休学可能期間（通算）
学部	８年	４年

休学・退学について

疾病その他やむを得ない事由により休学、退学を希望する場合、定められた期間までに「休学願」、「退学願」を提出する必要があります（各願の様式は文学部事務室にて配布）。各願の提出後、文学部教授会の審議を経て正式に休学、退学が承認されます。休学期間は１年または半年とし、春学期時に休学を申請する場合のみ１年間の休学を申請することができます。申請にあたり不明な点がある場合は必ず余裕をもって事前に文学部事務室まで問い合わせてください。

願の種類	提出締切
休学願	各学期の講義開始日まで
退学願	各学期終了日まで

卒業見込について

４年次春学期の科目登録期間において、卒業に必要となる科目を全て登録することで「卒業見込」の状態となり、就職活動や大学院入試などで必要となる「卒業見込証明書」が発行できるようになります。

春学期時に卒業見込証明書が必要な場合は必ず春学期登録期間に「卒業見込」状態となるよう１年間の科目登録を行ってください。

学費について

学費については、大学から郵送する振込依頼書を使用し、指定の期日までに納入を行ってください。延納・分納を希望する場合は所定の期間内に申請手続を行ってください。

各学期の学費納付書の送付予定は次のとおりです。

■春学期用（年額用を含む）：４月中旬

■秋学期用：10月中旬

休学申請を行った場合、別途休学在籍料納入用の振込依頼書を後日送付しますので、上記期間に送付される通常の振込依頼書は使用しないでください。

各種証明書について

就職活動や留学などで各種証明書が必要となる場合、大学に設置されている証明書発行機より出力することができます。発行可能な証明書は次の表のとおりです。また、発行可能時間は時期により異なりますので注意してください。

証明書の種類	発行について
在学証明書、成績証明書（※）、卒業見込証明書（※）、教育職員免許状単位習得見込証明書	和文：１通100円
	英文：１通300円
健康診断証明書（※） （４年次生以上のみ。３年次生以下は保健センターにて申請すること）	春学期登録期間中に実施される定期健康診断を受診していることが必要
学割証（※）	年度内10枚が上限。就職活動などで10枚以上必要となる場合は文学部事務室に相談すること

（※）がついた証明書については大阪サテライト・キャンパス、東京サテライト・キャンパスで発行可能です。

学生への連絡について

科目登録や授業に関する連絡について、学部掲示板、文学部HP、大学から交付したメールアドレス、学修支援システムDUETを通じて連絡することがあります。大切な連絡を見落とすことのないよう、登校時には掲示板を確認してください。また、DUETや大学から交付したメールアドレスに送付されるメッセージを携帯電話やスマートフォンなどに転送するよう設定しておいてください。

各種窓口について

学生生活上、不明な点が生じた場合は各事務室窓口まで問い合わせてください。以下に一例を示しますので参考にしてください。その他の例についてはStudent Handbookにも記載しています。

相談内容	取扱窓口
科目履修、休学・退学、証明書、成績に関すること	文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）
留学に関すること	国際センター国際課（扶桑館１階）
学費延納・分納について、奨学金に関すること	学生生活課（寒梅館１階）

欠席届について

授業に欠席し、その理由を授業担当者に伝える場合は、欠席届をご利用ください。欠席届の用紙は文学部事務室で配布していますので、必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出してください。なお、欠席届は任意で提出するものですので、届出必要科目は各自で判断してください。

提出の際の留意点

・欠席届は、欠席の事由を授業担当者へ伝える届です。本学には「公欠」の制度はありませんので、「追試験の対象となる事由」に該当する事由か否かに関わらず、欠席届の取扱い（欠席扱いにしない・する等）は、担当者の判断に委ねられます。

・欠席の事由を客観的に証明する書類がある場合は、欠席届に添付して提出してください（コピー可）。

例）病気の場合は「診断書」、

就職試験の場合は「受験先企業等が発行する就職試験受験証明書（本学所定用紙あり）」など

※ただし、欠席の事由が以下に該当する場合は、まずそれぞれの窓口に申し出て相談してください。

相談内容	取扱窓口
学校感染症罹患による出席停止	文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）
免許資格課程が必修としている正課科目の実習（教育実習、博物館実習、図書館演習）や介護等体験に参加	免許資格課程センター事務室 （今出川キャンパス教務センター）
裁判員制度によるもの	文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）
検察審査会制度によるもの	文学部事務室（今出川キャンパス教務センター）

休講・補講について

休講情報については学修支援システムDUET、良心館1階の休講情報掲示板から確認できます。授業実施当日に急遽休講となる場合もありますので定期的に確認してください。

授業休講に伴う補講については各科目担当者の指示に従い受講してください。

2023年度 開講科目

人材養成目的

文学部は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の専門諸領域における教育・研究をとおして、現代のグローバル社会の諸課題に自立的かつ実践的に対応する力を備えた人物を養成することを目的とする。そのために、演習・ゼミなどを中心にした少人数教育をとおして、各専門分野における基礎的な知識を修得したうえで、さらに、副専攻制度等を活用して、より幅広い有機的な教養の涵養を目指す。

■ 17頁 ■
英文学科
■ 45頁 ■
哲学科
■ 77頁 ■
美学芸術学科
■ 95頁 ■
文化史学科
■ 143頁 ■
国文学科
■ 153頁 ■
免許・資格関係科目

DOSHISHA UNIVERSITY FACULTY OF LETTERS

開講科目表の見方

履修年次

履修ができる学年を示します。

例）2～　：2年次以上で履修できる科目です。
　　2　　：2年次で履修すべき科目です。
　　2のみ：2年次の学生のみ履修できる科目です。

登録コード

科目を特定する「科目コード」とクラスを特定する「クラスコード」で構成されています。クラスコードが明記されている科目は、科目登録の際、両方の正しいコードで登録してください。

科目名・クラス

〇で囲んだ数字はクラスを示します。
科目名が同じで、クラス番号が違う科目は、特別に認められている科目を除いて、2クラス以上履修することはできません。

期間・時間

授業の開講される期間と週時間を表します。

春2　　：春学期に開講。週2時間（1講時）
秋2　　：秋学期に開講。週2時間（1講時）
春・集中　：春学期に開講。集中科目。
秋・集中　：秋学期に開講。集中科目。
春　　：春学期に開講。（時間の指定がない）
秋　　：秋学期に開講。（時間の指定がない）
春・秋2　：春学期～秋学期（通年）に開講。週2時間（1講時）
春・秋　　：春学期～秋学期（通年）に開講。（時間の指定がない）

校　地

授業が開講される校地を表します。

田　　：京田辺校地
今　　：今出川校地
交流セ　　：大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）
リトリート：同志社びわこリトリートセンター
インタ　　：インターネット講義
海外　　：EUキャンパス等

他学科他学部生履修（表示では「他学部生」）

可　　：他学科、他学部の学生も履修ができる科目です。
不可　　：他学科、他学部の学生は履修ができない科目です。

聴講生履修（表示では「聴講生」）

可　　：聴講生が履修できる科目です。
不可　　：聴講生は履修ができない科目です。